

甲状腺機能低下症状に「当帰芍薬散」



楠部 潤子 先生

なんぶ甲状腺クリニック

2002年 関西医科大学 医学部 医学科 卒業
 東京都立墨東病院 初期臨床研修
 2004年 広島大学 第二外科 入局
 尾道総合病院、東広島医療センター、土谷総合病院 勤務
 2016年 広島大学大学院 歯薬学総合研究科 博士課程 修了
 2018年 なんぶ甲状腺クリニック 開院

はじめに

甲状腺機能異常をきたす疾患に対する治療薬（チアマゾール、レボチロキシナトリウム水和物など）は、あくまでも甲状腺ホルモン値の正常化を図るものであり、各々の症状に対する治療薬とはなり得ない。また、治療過程においても甲状腺ホルモンの正常化までにある程度時間を要する症例や、正常化後も自覚症状が遷延する症例をしばしば経験する。

一方で漢方製剤は、甲状腺機能異常に伴い出現する「自覚症状そのもの」に対して対処できる可能性がある。

甲状腺ホルモンの低下と当帰芍薬散

甲状腺ホルモンが低下した状態は、東洋医学的に水滞・気虚・血虚であり、病期分類は気血両虚の状態からさらに全身倦怠感、四肢冷感、脈の微弱などの症状が現れた少陰病と考えられる(図1)。

一方、当帰芍薬散は顔や全身がむくむ、寒がり、体重が増える、肌がかさかさ、髪が抜けやすい、物忘れしやすいなどの症状に有効である(図2)。

症例1 バセドウ病(薬物療法中)

症 例：48歳 女性。

現病歴：バセドウ病と診断されチアマゾールによる治療

を開始したが、1ヵ月後に薬剤性甲状腺機能低下状態となった。東洋医学的所見は、現症は倦怠感、便秘、むくみの増悪、脱毛の訴えがあり、望診ではやせ型、虚証で、著明な眼瞼浮腫を認め、四肢冷感・皮膚乾燥を伴い、脈診では沈弱、舌診では舌色淡白、白苔なし、軽度歯痕あり、舌下静脈怒張なしであった。

図1 甲状腺ホルモンが少なくなると…

<ul style="list-style-type: none"> ● 顔や全身がむくむ ● 寒がり ● 疲れやすい、だるい、無気力 ● 脈が遅くなる ● 体重が増える ● 肌がかさかさ ● 髪が抜けやすい ● 物忘れしやすい ● 便秘 ● 月経過多 	<p>【気血水】</p> <p>水滞 気虚 血虚</p> <p>【六病位】(病期分類) 少陰病</p>	<p>いつも眠い 顔がむくむ 手がむくむ 寒がり 皮膚がかさかさする</p>
--	---	--

図2 当帰芍薬散

<p>当帰芍薬散</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 四肢・体表の血行を良くして温める ● 脳動脈の血流を良くして認知機能障害を改善 <p>補血作用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 顔や全身がむくむ ● 寒がり ● 疲れやすい、だるい、無気力 ● 脈が遅くなる ● 体重が増える ● 肌がかさかさ ● 髪が抜けやすい ● 物忘れしやすい ● 便秘 ● 月経過多
<p>白朮茯苓沢瀉</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 組織の過剰な水分を除く <p>利水作用</p>	<p>など</p>

臨床経過：チアマゾールの減量後もfT4の低値が遷延していたため、X年8月からクラシエ当帰芍薬散(KB-23)6.0g/日(分2)の併用を開始した。ホルモン値の改善を認める前から四肢冷感、眼瞼浮腫は軽快し、最終的にfT4値の正常化後、当帰芍薬散を廃薬とした(図3)。

症例2 甲状腺がん術後(アイソトープ治療中)

症例：30歳 男性。

現病歴：進行甲状腺がんに対し甲状腺全摘術が施行されたが、術後6年で骨転移が出現したため、ヨウ化ナトリウム

(I-131)治療を継続中である。身体所見は、身長 176.5cm、体重 96.6kg、BMI 31.0と実証であった。

治療経過：レボチロキシナトリウム水和物を1ヵ月間休薬することで、fT4値は0.1ng/dLまで低下、一方でTSHは92.08μIU/mLまで上昇した。過去の治療中はこの間に激しいむくみと倦怠感に悩まされていた。今回は休薬と同時にクラシエ当帰芍薬散(KB-23)6.0g/日(分2)の服用を開始し、再開後も甲状腺ホルモンが正常化するまで、当帰芍薬散の服用を継続することで、むくみ、倦怠感の軽減、症状の早期消失を図ることが可能であった(図4)。

図3 症例1 臨床経過

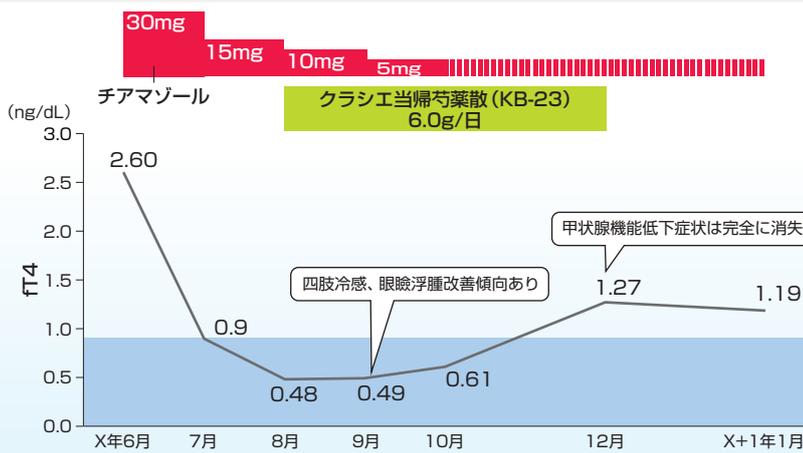
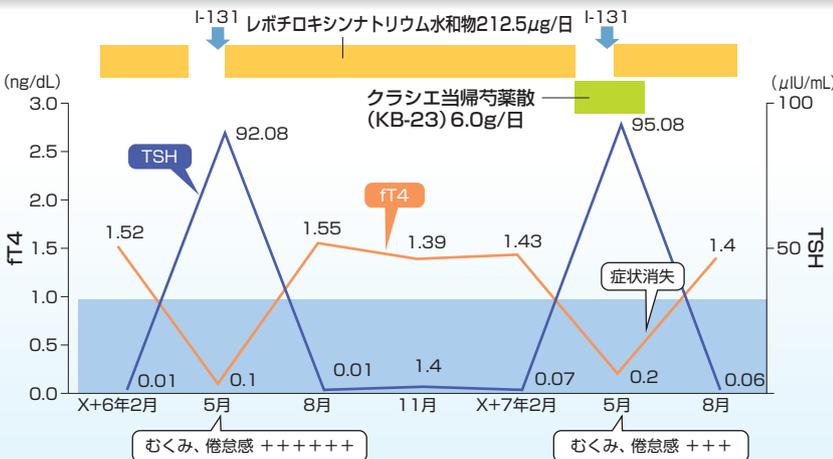


図4 症例2 臨床経過



まとめ

甲状腺疾患の治療過程において、甲状腺ホルモンの正常化までにある程度の時間を要す場合をしばしば経験する。漢方製剤は、ホルモン正常化までの間に出現する「症状」に対処できる有用な手段の一つと考える。

Discussion

- 木村：**症例2は比較的若く、体格も良い男性患者さんですが、五苓散ではなく当帰芍薬散を選択された理由を教えてください。
- 楠部：**実証で冷えはありませんでしたが、アイソトープ治療によって水毒だけでなく血虚の出現も予想される病態のため、当帰芍薬散を選択しました。
- 木村：**橋本病の患者さんなどでは、ホルモン値が正常化しても冷えやむくみ、だるさを訴える方も多いと思いますが、先生はどのように治療されていますか。
- 楠部：**橋本病にかかわらず、女性で当院を受診される方は高率に倦怠感や冷えを訴えられますが、甲状腺ホルモンは半分以上の方が正常で、ホルモン剤は適応外です。浮腫や倦怠感に当帰芍薬散、また冷えを強く自覚されている方は真武湯、気虚の状態が強い場合は補中益気湯などの補気剤も併せて使用することで対処しています。